

「TOPICS」

①大学主催保護者懇談会開催

大学主催保護者懇談会が10月6日(土)午後1時から開催され91名の保護者のみなさまが参加されました。

当日は学長、学部長、学務部長から大学の状況等が説明され、第2部からは各学年にわかれ学年主任から授業・学生生活の状況が説明され、活発な意見交換がなされました。

またその後、希望された保護者の方とクラス担当教員との個別面談を実施いたしました。

②文部科学省博士課程教育リーディングプログラム

文部科学省によるこの事業は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くための事業です。このうち本学が行うプログラムは、災害看護グローバルリーダーを養成することを目的としています。このため、専門分野の枠を超えて博士課程で5年間一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する今までにない共同大学院教育です。

平成26年度(予定)から、高知県立大学を責任校として、兵庫県立大学、東京医科歯科大学、千葉大学、本学の5大学共同大学院としてグローバルな災害分野での博士課程の学生養成を行っていきます。

③学生生活状況

●全国赤十字大会・東京都赤十字大会参加

5月8日(火)に実施された全国赤十字大会、10月3日(水)に実施された東京都赤十字大会に4年生及び1年生が参加しました。

大会において本学学生はそれぞれの役割(合唱、

会場誘導、警備)を行い、合唱においては「あこがれの赤十字」を歌い、終了後会場からの暖かい拍手をいただきました。参加した学生からは式に参加した喜びと安堵の音が聞かれました。

●就職・進学説明会

4月19日(木)全学生を対象とした進学・就職説明会を実施しました。午前は1・2年生を対象とし、第二ブロック内にある赤十字各医療施設の看護部長からの病院紹介があり、午後は全学生を対象とした赤十字以外の医療施設の参加も得て、奨学金・就職担当者による進学・就職個別相談会を実施しました。参加した学生からは本学卒業生等からの就職相談が受けられ、就職への道筋を考えることができた等、期待と希望に満ちた声が聞かれました。

また前期には各領域内の担当教員による就職・進学相談会を開きました。

●防災訓練

6月20日(水)全学生を対象とした防災訓練が実施されました。第1部は避難経路確認を含めた避難訓練、第2部は各学年に分かれてAED(自動体外式除細動器)を使用した救命手当等を実施しました。

④平成24年度学生奨学金給付状況

保護者会から学生支援の一環として、「保護者会給付奨学金」として、平成24年度は17名に受給されました。

また海外留学給付奨学金を受給した学生から、御礼及び留学時の状況が書かれた保護者会会長宛の手紙が届きました。

日本赤十字看護大学保護者会報(第3・4号)2012年12月

保護者会活動を通して思うこと

理事 野村 幸弘

今年度から、理事を務めさせて頂いている野村でございます。役員の方々と協力して、微力ながら全力を尽くしたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

我が家では、日頃から健康や医療に対する関心が高く、今年から娘が本学で学ぶことになり大変嬉しく思っています。また私自身、これまで入院4回、手術2回と非常に医療のお世話になって来ています。そのため、「直接的には無理にしろ、機会があれば間接的にでも医療への恩返しが出来ないものか」と思っていました。今回、このお誘いがあった時、これもある意味「自分で出来る医療への恩返し」ではと思い、お引き受け致しました。

社会福祉及び医療の問題は、少子高齢化社会を急激な速度で迎える我が国にとって、国家の根幹に関わる重要な問題です。その医療に携わる使命を自ら選択した学生達に敬意を表したいと思います。そのような志高い学生達への支援を行う本会の活動は、非常に意義あることと感じています。

本会の活動も4年目を迎え、関係者の御理解も深まりつつあると思います。現在では、奨学金、予防接種、備品提供、国家試験対策及びコミュニケーションセミナー開催等の支援を行っております。今後は皆さんの貴重な意見に耳を傾け、役員会での活発な議論を行い、より充実した内容にしたいと考えています。先日行われた保護者会懇談会でも、多くの方々の意見・感想を伺い、参考になる点が多々ありました。このような機会は、活動の方向性を見極める重要な場と考えます。是非、保護者会への積極的な参加や意見の発信をお願い致します。

今後も保護者会では、赤十字の理念「人道」を実現すべく多くの学生達が飛立って行くよう、可能な限りの支援を行いたいと思います。

保護者会活動を通して

監事 鈴木 浩子

保護者の皆様には平素から保護者会活動に対して

様々なご支援を賜りまして心から感謝申し上げます。

私の長女が看護師を目指して念願だった本学に入学し、私も及ばずながら何かお手伝いをさせていただきたいと思い、保護者会の監事をとのお話を頂いた時ご協力できることがあればとお受けすることに致しました。

保護者会活動は、学生が有意義に楽しく過ごせるよう各種事業を行っております。藤原会長はじめ役員の方々、事務局の方々に教えていただきながら活動させていただいております。皆様から会費をお預かりして、学生に有効活用するために様々な支援を行っていることはご存じのとおりです。その中の一つで保護者会主催の学生支援セミナーを実施しております。

学生も充実した環境で様々な分野の講師のお話を聞くことによって、社会人として、看護職としてのステップアップにつながるができると思います。看護職である前に一人の人間としての成長につながり、ひいてはその貴重な体験があってこそ人を見る目が培われたり、これから出会う様々な患者さんに接する際に大いに役立つのではないのでしょうか。

人間としての尊厳を大切にすることが看護の基本であると高田早苗学長もおっしゃられております。看護を必要としている患者さんは患者である前に生活する一人の人間です。一人の人間としての生活背景を知り、心に寄り添った看護をしてくださる看護師に巡り合えることはとても幸せなことであると思います。多くの学問や経験を積んで様々なことに対応できる、心優しい看護師になることができるよう学生も日々努力していると思います。私たち保護者会では、学生が生き生きと過ごせ目標である看護師として社会に貢献できることを願っております。これからも保護者会活動を支えていく一人として、微力ながら務めさせて頂きたいと思っております。

役員名簿

会長	藤原 忠美	理事(大学)	逸見 功
副会長	内藤 二三枝	理事(大学)	三井 俊介
副会長	宮原 裕子	監事	高城 美穂子
理事	野村 幸弘	監事	鈴木 浩子
理事	宮下 裕子		

年間情報 平成24年度の動き

日程	行事予定
4月2日(月)	入学式
4月3日(火)～6日(金)	ガイダンス
4月5日(木)～6日(金)	合宿オリエンテーション(1年)
4月9日(月)	前期授業開始
4月19日(木)	奨学金・進路説明会
6月8日(金)～9日(土)	大学祭(クオアルーージュ祭)
6月9日(土)	保護者会
6月20日(水)	防災訓練
6月30日(木)	公開講座
7月28日(土)～8月26日(日)	夏季休暇 学年によって時期が若干異なります。
9月24日(月)	後期授業開始 学年によって時期が若干異なります。
12月22日(土)～1月6日(日)	冬季休暇
3月9日(土)～31日(日)	春季休暇 学年によって時期が若干異なります。
3月19日(火)	卒業式

事務局から...

本学保護者会では、保護者の皆様に会報として大学の情報をお届けいたします。

ご住所が変更になった場合は、大学学務課へのお届けをお願いいたします。

また 皆様からの投稿やお声もお待ちしております。

日本赤十字看護大学
保護者会報(第3・4号)

発行日 2012年12月
発行者 日本赤十字看護大学
保護者会

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3
日本赤十字看護大学広尾キャンパス
保護者会事務局(月曜日・水曜日 10:00-15:00)
[Tel] 03-3409-1757 [E-mail] hogosyaj@redcross.ac.jp

国家試験対策について

老年看護学 准教授 千葉 京子

保護者の皆様には日頃から本学の教育にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。今回、保護者会の皆様の貴重な会費の一部を看護師および保健師の国家試験対策に活用させて頂いておりますので、その概要を述べさせていただきます。

国家試験対策は入学時からの授業と実習を通して4年間で取り組むものですが、具体的な取り組みとして国家試験ガイダンス、アチーブメントテスト、模擬試験、国家試験対策講座を実施しています。

国家試験の説明と学習の動機づけを主眼とした国家試験ガイダンスと、自らの学習成果を把握するためにアチーブメントテストを、3年次と4年次の4月に実施しています。アチーブメントテストは教員が国家試験に準じた形式・内容で問題を作成しています。学生はこの結果を受け、知識が十分でない分野を意識して学習計画を立て取り組み始めます。

4年次の7月から1月の期間に、国家試験専門の予備校講師による対策講座を4日間と全国規模の模擬試験を受験します。看護師国試対策模試3回、保健師国試対策模試を2回受験し、学生はその成績を参考にして合格に向けての学習計画を調整します。これらに貴重な保護者会補助金を活用させていただき、学生の国家試験合格への強力なサポートとなっております。このような取り組みの成果として、平成23年度、24年度の看護師国家試験合格率は100%を達成できました。保健師も難問が増え全国の合格率が下がるなかで、全国平均を上回る90%台を維持しています。

教員による対策講座は学生の希望と模擬試験の成績を考慮し、1月に重点的に実施しています。さらに学生の個別の質問にも全教員で支援する体制を整えています。

看護師および保健師は国家資格を得なければ実践することができない専門職です。4年間かけて学んだ知識と技術、そして看護観を社会に活かすために、晴れて合格の吉報を学生・保護者の皆様と共に手にすることを心より願っております。

看護学実習について

基礎看護学 助教 殿城 友紀

保護者の皆様には、講演会の開催など実習へのご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

実習が始まりますと、「実習が大変」という言葉をお聞きになることが多いのではないかと思います。学生にとって、講義と演習で学んだ知識を総動員して目の前の患者にケアを提供するのは「大変」なことです。モデル人形の患者とは違い、受け持ち患者には個性がありますし、看護学生としての責任も生じます。

医療は高度化しており、疾患や治療を理解するだけでも一苦労です。学生は教科書を片手に学習し、患者に必要な看護を懸命に考えます。患者の体温や血圧を測定し、身体に触れ、自らの五感を使って患者の状態を観察します。表情や言葉にも注意を向けながら、患者の心身の状態を推測します。痛みなどの苦痛があれば軽減する方法を考えます。身体を拭く、トイレの介助など生活行動援助も行います。消化器の術後患者や糖尿病患者の退院後の生活を考え、食生活についてのパンフレットを作成し、臨床指導者の指導を受けながら看護学生としてできる限りのアドバイスをすることもあります。

看護実践においては、患者の思いに寄り添い、患者を尊重した態度が求められます。そのため、学生は患者の思いを知ろうとします。「どのようにかわれば患者の思いが聴けるのか」と悩み、患者がふとつぶやいた言葉の意味を考えます。患者の生き方に感動したり、想像を絶する体験に触れて言葉を失ったり、患者の辛さを感じてただその場に立ち尽くしたり、涙を流したりしながら患者理解を深めていきます。患者の体験に触れることこそが、学生を成長させ、豊かな人間性を育むのだと思います。

実習を重ね、学生は4年間で見違えるような成長を遂げます。実習体験をキラキラとした眼差しで語る学生を見ると、実習という場の力の大きさを実感します。学生の実習での体験の意味をともに考えながら、大変さの中にも看護という営みの楽しさや奥深さを感じることができるよう実習をサポートしていきたくと考えております。

海外留学奨学生

1年 田邊 京花

この度、平成24年度、日本赤十字看護大学保護者会海外留学奨学生に採用されました。田邊京花です。採用していただき誠にありがとうございました。おかげさまで、オーストラリアでの語学研修に参加でき、貴重な体験をすることができました。

私は、将来、途上国での活動を行うことを目標のひとつとしています。具体的にはそれらの国々に自ら足を運び、現地のニーズに合った方法で、現地の人と一緒に物事を考え、その人たちの健康管理を行っていくことです。

実際に、オーストラリアに行ってみると、アジア

や中東、欧米などの国の違いを肌で感じる事ができました。また、現地の学校に通い、様々な国の生徒と一緒に授業を受けることで、その国に対して持っていた先入観に気づくこともできました。そして、人種が同じでも違っていても、先入観なく人と接することは大切なことだと感じました。これは、今後、実習・臨床の場に出たときに、患者さんの状態を理解し、コミュニケーションを取っていくうえで重要なことであるので、忘れずに心がけていきたいです。

この体験を通して、さらに海外への興味が湧き、学生のうちに多くの場所に訪れて、自分の視野を広げたいと思います。そのために、今後の大学生活の中で、奨学金への感謝の気持ちを忘れずに努力し続けていきます。

日本赤十字看護大学保護者会 災害対策備蓄品について

昨年度から、保護者の皆様からのご支援により、全学部生を対象に、3日分の食料確保を目標に備蓄してまいります。飲料水については、大学が備蓄しております。

No.	品名 (整備目安)	23年度備蓄量	24年度備蓄予定量	24年度備蓄量	積算根拠 (23年度・24年度同額)
1	パンの缶詰	600 個	600 個	1,200 個	210,000円 (@350円×600個)
2	おかゆ	600 個	600 個	1,200 個	150,000円 (@250円×600個)
3	ビスケット (缶入り)	600 個	600 個	1,200 個	138,000円 (@230円×600個)
	計	1,800 個	1,800 個	3,600 個	498,000円

(参考) 日本赤十字看護大学整備計画

【広尾キャンパス】

No.	品名	最終 (26年度) 目標備蓄量 (800名分)	23年10月 現在備蓄量	達成率	積算根拠
1	トイレ処理セット (100回分)	120セット	51	43%	1セット/20人分 (1日のトイレ回数5回/人) (800名×3日) ÷ (20名/セット) =50セット
2	エマージェンシーブランケット	800枚	800	100%	1人1枚使用
3	ラジオ付ライト	25個	7	28%	約30名に1個支給
4	ハンドメガホン	10個	9	90%	80名に1個支給
5	担架	15台	2	13%	1号棟B1F～6F各1台 小計7台、2号棟1F～4F各1台 小計4台 広尾ホール2台 合計15台
6	三角巾	250枚	100	40%	帰宅困難者のうち、約3割の傷病者発生を想定
7	災害救助工具セット	5セット	2	40%	1号棟B1F～6F各1セット 小計7セット、2号棟1F～4F各1セット 小計4セット 広尾ホール2セット 合計15セット
8	応急処置セット (20名分)	40セット	2	5%	1セット/20名分 800名 ÷ (20名/セット) =40セット
9	マスク (防護用20枚入り)	120箱	5	4%	1箱/20枚入り (800名×3日) ÷ (20名/箱) =120箱
10	ウォータータンク 20L用 (水汲み用)	5個	5	100%	
11	飲料水650ml入	1600本	800	50%	1名に1日1本、3日分支給
12	アルファ米	48セット	20	42%	1セット/50人分 (800名×3日) ÷ (50名/セット) =48セット

※学内関係者の約5割が3日間、帰宅困難者として学内に滞在することを想定